

## 転結

追い立てられるような夜の寒さから

あの女は包帯を脚に巻く

扉は閉まる、私への誘惑の背後で  
あの女は振り向く、一瞬の空白

\*

青く鳴り響くベルに駆け上り  
逃げ去れば逃げ去るほど追いかけられる

ピロードの上には欲望と煩悶の  
ねっとりとした涙が落ちる

空腹が憂愁の衣をまとい  
ろくでもないポーズが笑いころげる

そんな後に美しく見えるのだ  
鉛筆やスタンドやカップなんてものが

\*

狂気を見つめる瞳にかすかな哀しみ  
リートの伴奏に生活のくり返し

断片的な美の連なりを時が追い越すとき  
陶酔という空白の故に感情が逃げ去る

取り残された倦怠の中に没落の吐息  
既に伴奏は聞こえない

(1984.11.24)